

京都美術工芸大学

副学長・大学院研究科長

高田 光雄 教授

持続可能な住まいとまちづくりの
実践的研究の深化を

住環境は生活を支える要素「衣食住」の中でも、子育てやまちづくりにも関わる広範なものです。高田光雄先生は、住まいやまちづくりの実践的研究のベースを確立され、持続可能な社会に対応した住宅の設計や供給方法などを研究・実践しておられます。

住環境を研究し実践へ

現在、新築住宅において床の間を持つ家はどれほどあるでしょうか？床の間はかつて武家社会の格式や封建制の象徴と批判されたことがあります。

「床の間を設けた座敷や土間がなくなり、部屋の秩序が失われました」

それにより、「非日常と日常」「静と動」などの「関係」が消失してしまつたと、京都美術工芸大学の研究室で高田先生が話されます。先生の研究室は、小学校の旧校舎のリノベーションを経て、2017年に開設された同大学京都東山キャンパスにあります。

この地で高田先生がさらなる深化に取り組んでおられるのが、住環境の実践的研究です。

町家の再生を図る

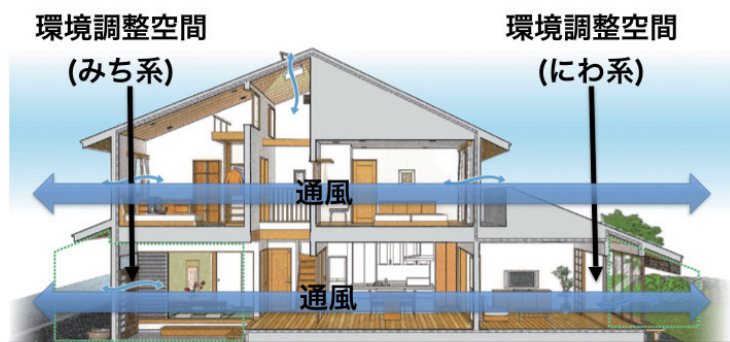
近年、省エネ住宅など持続可能性を追求する住まいが、国を挙げて推奨されています。

「外壁の気密性、断熱性を高めた魔法瓶のような住まいがその一例です。こうした住宅は省エネには効果的ですが、場合によっては生活文化を破壊します。それ以外の方法も選択肢として提示すべきです」

例えば、高温多湿な京都では、京町家に坪庭を作ることで風の通りが工夫されています。坪庭に水を打つことで外部空間に気圧差をつくり、室内に風を呼び込んでいるのです。また、縁側では、障子を閉めることで、空気層が断熱効果を発揮します。

このような伝統的な住まいの知恵を再評価

(図2)平成の京町家



京町家の知恵を参考に、最大限の風通しを実現しつつ、断熱効果も最大化した。

(図3)再生した京都市内の路地長屋



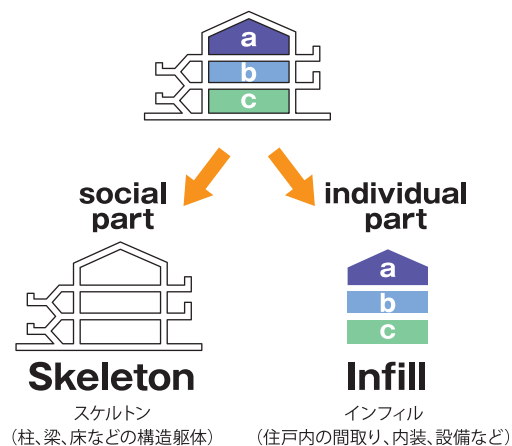
路地を子育て支援の場に活用する。
撮影：森重幸子

れたのです。

高田先生が「住まいやまちづくりの実践的研究」で確立されたのは、建築のデザイン、社会のしくみ、そして地域まちづくりという三つの領域を相互に関連付け、理論的・実証的研究と社会実験・実践を重ね合わせながら総合的に研究を推進するという方法です。

※裸貸し：大家が柱・梁・屋根・外壁などを所有し、借りる側は畳・襖・障子、流し、竈などを自分で調達する賃貸方法。

(図1)二段階供給(スケルトン・インフィル)方式



社会的部分と私的部分を分けた結果、内装や間仕切りの自由度が高まった。

し、新たな技術的改良を加え、さらに、住まい手の「住みこなし」を導こうとした現代住宅提案が「平成の京町家(図2)」です。「最大限の風通し」を確保した上で、玄関土間や縁側などを「環境調整空間」として位置付け、天井や床の断熱に加えて、召合せを工夫した太鼓張の障子などで土間や縁側の空気層の断熱効果を最大化しています。

路地を子育て支援環境に

高田先生は、町家や路地などに残る「住みこなし」や「住みこたえ」は、子や孫だけでなく第三者にも継承すべきだと考え、これを「住み継ぎ」と呼んで、京都美術工芸大学に移られたあとも、さらなる研究に取り組んでおられます。高田先生が研究代表を務め、多数の大学や研究機関の研究

者が参加して4年間にわたって行われた科学研究費助成研究『少子高齢化社会に対応した子育て支援住環境システムの構築と実装に関する研究』に含まれる京都市内の路地長屋を子育て世帯向けに改修再生するというプロジェクトもその一つです(図3)。路地(道幅が4メートル未満の街路)に面する住宅は、建築基準法により

原則建替えができません。そのため空き家化などが進んでいます。一方、路地は車の出入りが制限されるため、子どもには安全な遊び場となってきました。また、長屋は人間関係が築きやすいことから、近所さんによる子ども見守りなど、子育て世代には有意な点が多々あります。そこで、京都市内の路地に面する長屋を子育て世帯用に改修したり、避難路の再整備を行なった上で建替える計画などが進められています。

このように実践的な研究を精力的に続けておられる高田先生は、後進の育成にも熱心に取り組んでおられます。京都美術工芸大学は、今年度、京都で初となる、また美大では全国初となる建築学部を開設しました。「建築デザイン領域」と「伝統建築領域」の横断的融合による新たな教育などが始まっています。まさに、高田先生が継続されてきた実践的研究が新たなフィールドで広げられようとしているのです。

「学生たちには、常々、不得意なことを改めるのではなく、得意分野を伸ばしなさいと説いています」

「葉を欠いて根を断つ」――日本の住まいも欠点を除くばかりでは、長所が消失しかねません。

高田 光雄(たかだ みつお)

京都美術工芸大学
副学長・大学院研究科長・教授
博士(工学)・一級建築士

京都大学工学部建築学科卒業。同大学院工学研究科修了。同助手、助教授、教授を経て、現職。京都大学名誉教授。(公社)都市住宅学会会長、(一社)京都府建築士会会長、京都府・京都市建築審査会会長、京都府・京都市住宅審議会会長、京都市京町家保全継承審議会会長などを務める。日本建築学会賞、都市住宅学会賞、日本建築士会連合会賞など受賞多数。

